

豊岡偉人伝 1

私たちの暮らしの発展に尽くし、近代日本の礎を築いた人、スポーツ・芸術の普及発展に心血を注いだ人など、豊岡にはさまざまな先人たちの心が息づいています。

その先人たちに学び、志を引き継ぎましょう。

《問合せ》文化振興課 ☎23-1160

自然を愛し 極地で輝いた 少年の心そのままの冒険家 植村直己

(1941～1984)

植村直己

日高町上郷出身 冒険家
1984年 国民栄誉賞受賞



(写真提供：文藝春秋)

冒険史上、数々の不可能を可能にしてきた日本を代表する世界の冒険家。自分の夢に向かってひたむきに取り組んだ姿勢は、世界の人々に夢と希望を与え、その不撓不屈の精神は今でもこのまちで生き続けています。最後まで

持ち続けた南極大陸横断の夢はかないませんでした。その夢が縁で本市職員の南極観測隊派遣が実現しました。

▶世界放浪の旅へ(23～27歳)

“氷河がみたい!” 大学卒業後、わずか110ドル(約4万円)を持ってアメリカへ。

▶アマゾン川6千km、イカダくだけり(27歳)

“全精力を傾けて事を成せば不可能はない!” と60日間で成し遂げる。

▶エベレスト登頂と世界初の五大陸最高峰登頂(29歳)

日本人として初めて世界最高峰エベレストに登頂。引き続き北アメリカ大陸最高峰のマッキンリーにも登頂し、世界初、五大陸最高峰登頂者となる。

▶日本縦断3千km(30歳)

南極大陸横断の距離を体感するため、北海道稚内から鹿児島まで約3千キロを52日間野宿しながら歩く。

▶北極圏1万2千km単独犬ゾリ行(33歳)

グリーンランドで犬ゾリトレーニングと極地生活を体験。そして、犬ゾリによる1万2千キロ単独行を約1年半かけて成功させる。

▶北極点到達・グリーンランド犬ゾリ縦断(37歳)

氷点下50度の極寒の中、たった1人で進み、ホッキョクグマに襲われるなど、さまざまなアクシデントを乗り越え、北極点に到達。その後、グリーンランド3千キロ縦断を果たす。

▶冬期マッキンリー単独登頂・その後消息を絶つ(43歳)

1984年2月12日、43歳の誕生日に世界初の冬期マッキンリー単独登頂に成功。翌13日、連絡飛行機のパイロットとの無線交信を最後に、消息を絶つ。



(写真提供：文藝春秋)



(写真提供：文藝春秋)



(写真提供：文藝春秋)

植村直己冒険賞

平成8年創設。植村直己の精神を継承し、その精神によって未知の世界を切り拓き、人々に夢と希望、そして勇気を与えてくれた創造的な行動(業績)を表彰しています。6月に16回目の授賞式を行います。



植村直己冒険館

植村直己の装備品や冒険行の記録映像などを展示。今なお世界の人々から称賛されている植村直己の「知恵と技術」に加え、彼の「人と心」を後世に伝える施設です。



●発行／豊岡市
☎0796612311
FAX231124
●編集／政策調整部秘書広報課

〒668-8666
兵庫県豊岡市中央町2番4号
URL http://www.city.toyooka.lg.jp

(総合支所)
・竹野 ☎471111
・出石 ☎523111
・城崎 ☎544232
・日高 ☎1101
・但東 ☎544232
11001